

日記:地域包括支援センター三方原 演習事業

～BPSD(行動心理症状)に対応した支援を学ぼう～

H28年10月19日(水)

三方原協働センターにて、浜松市北区をサービス提供エリアとする事業所の介護支援専門員及び関連施設に勤務する介護支援専門員を対象に浜北さくら台病院の副院長であり、精神保健指定医である大村久美子先生による「認知症の BPSD(行動心理症状)に対応した支援を学ぶ」というテーマで講義が行われました。当日は会場が一杯となる40名程度の介護支援専門員の方々のご参加をいただきましてありがとうございました。



【プロフィール】

大村久美子 医師

浜松医科大学医学部 卒業

医学博士・日本整形外科学会専門医・日本精神神経学会専門医・精神保健指定医・認知症サポート医

はじめに主催者である地域包括支援センター三方原の方のご挨拶があり、大村久美子先生の講義が始まりました。内容としては、認知症の類型別の症状や望ましい対応などの基礎知識、抗認知症薬の知識、気づき～軽度の認知症の段階での専門医による早期治療の必要性などです。早期から治療や体制をつくることで改善や進行を遅らせることができることをもっとみなさんに知っていただき地域にも広めていただきたいと思います。みなさんも真剣に講義を受けられており認知症への関心の高さが伺えました。



講義が終了し、認知症の方の事例を通してグループでの意見交換が始まりました。

2つの事例についてグループの中で話し合い、グループ代表の方から質問や意見を出していただき大村久美子先生にアドバイスをいただきました。認知症の自覚がない方を受診に繋げる難しさや徘徊、抗認知症薬の使用についての質問など実際の現場で直面している課題やご意見を聞かせていただきとても参考になりました。



最後に地域包括支援センター三方原の方よりご挨拶と認知症の早期介入についての重要性のお話があり、そのあとに当院の相談員(精神保健福祉士)より当院の認知症治療病棟ともの忘れ外来の案内をさせていただき今回の演習事業は終了となりました。

ご参加いただいた方からも大村久美子先生の穏やかで相談しやすい人柄についてや認知症の講義内容について良かったというお声をいただき、とてもうれしく思います。

当院としても「地域を支える病院」としてみなさんのお手伝いをしていきたいという思いです。

ご参加いただいた方はもちろん、認知症について相談したいと考えられているご家族の方などもお気軽にお問い合わせしていただければと思います。

お問い合わせ先は、代表番号:582-2311で医療相談室の認知症担当の相談員を呼んでいただければお話をお伺い致します。